
招き猫

syuuta

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

招き猫

【Nコード】

N0534M

【作者名】

syuuta

【あらすじ】

女子中学生が怪談をする。という話です。

店員「いらしゃいませ。2名様でしょうか？」

亜季「3人ですよ？」

店員「申し訳ございません。3名様ですね、ではあちらのテーブルにどうぞ。」

麻理「あの店員数も数えられないのかな」

加奈「まあ見るからに頭悪そうだし、しょうがないんじゃない。」

私たちは早めに宿題を終わらせておこうという亜季の提案を受け喫茶店で宿題に取り組んでいた。

しかし、加奈の夏といえば怪談だね、という一言から宿題そっちのけで怪談話に花を咲かせることになる。

麻理「怪談といえばやっぱり七不思議が思いつくなあ。うちの学校にもあるのかな？」

亜季「学校の七不思議かあ。今どきそんなのあるの。」

加奈「七不思議とは違うけど友達から面白い話聞いたことあるよ。」

麻理「さすが加奈。どんな話？聞かせてー」

加奈「じゃあ。これは友達から聞いた話なんだけど・・・」

加奈「その友達ん家の近くにはでっかい山があるの。で、その山の入り口のところで三毛猫を見かけたんだって、その猫はなんと・・・」

亜季「なんと？」

加奈「30万の賞金がかかった探し猫だったの。もうこれは捕まえるしかないと思ったわけ。んで、猫を追いかけて山に入った。」

麻理「30万の探し猫？どっかでそんな話聞いたような・・・」

加奈「でもやっぱり猫のほうが速いでしょ。全然追いつけなくて見失いそうだったんだけど途中まるで猫が捕まえてみるといわんばかりに止まったりして結構山奥まで追いかけてちゃったのよ。」

加奈「まあ結局見失なっちゃって仕方がないから帰ることにしたの。でもその時後ろのほうから声がした・・・」

亜季「どんな？」

加奈「私に何か用だったって女の人の声。振り替えるとそこにはさっきまで追いかけてた猫がいたんだって。で怖くなってその山から家まで走って逃げた。」

麻理「それで終わり？」

加奈「そう焦るなよー。後から友達にその猫について聞いてみるとその山にいる三毛猫は人を山に招き入れては迷わせて遭難させるって噂がある猫だったの。」

麻理「なんかその話聞いたことがある。確か猫の質問に答えちゃうと遭難するってやつじゃない？」

美穂「ねえ二人で何話してるの？」

後ろから声が聞こえたので麻理と亜季は振り返る

麻理「加奈もいるから3人でしょ？」

美穂「加奈??二人とも聞いてないの・・・加奈は・・・」

美穂の話によると加奈は二日ほど前から行方が分からなくなっていて、今日山で死体となって発見されたらしい・・・

加奈の死体の近くには三毛猫の死骸もあったという。

では私たちが喋っていたのは一体・・・・・・・・

（後書き）

1時間もかからず書いたので内容は浅いかもかもしれません。

読んでいただけたのなら、なんらかの感想を書いて貰えるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0534m/>

招き猫

2010年10月9日19時44分発行